
地縛霊

麻未夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

地縛霊

【Nコード】

N5227P

【作者名】

麻未夢

【あらすじ】

とあるアパートの一室で自殺し、幽霊になった今もまだその部屋に居座り続ける女。彼女は、その部屋で母親から理不尽な虐待を受ける少女の前に、何の為に術もなく胸を痛めるばかりだった毎日に終止符を打つべく、ある行動に出る事にした。だがその結果、事態は予期せぬ方向に転がる。

—— こんな女でも母親になれたってのに、なんだった私は、あんな男と心中なんてしちゃったのかしら。

私は部屋の片隅で、そんな若気の至りを後悔しつつ、今日も始まった虐待劇場を黙って見つめた。

20代前半といったところだろうか。長い髪を茶色に染めたその女は、昼近くになってようやく布団から這いだしてきたかと思えば、布団のそばで母親が起きてくるのを待っていた娘を、いきなり殴りつけた。

そしてタバコに火をつけ、殴られても涙一つ見せない娘を、泣きもしないなんて可愛い気がないと言って更にひっぱたく。むろん、泣いたら泣いたで「泣くな」と言っただけでひっぱたくのだ。

若さ故の無駄な行動力で、思わず同棲相手と心中してしまった馬鹿な私だが、この女の馬鹿さ加減には、ほとほと呆れてしまう。

どういう経緯でもって母子家庭として、こんなボロアパート、それも心中事件が起きたばかりのいわゆる事故物件になんてやってきたのかは知らないが、少なくとも子供に罪はないはずだ。

子供を育てる自信がないなら、産まないという選択もできただろう。産んでからだって、どうしても子供が邪魔なら、施設にでも預けるという選択をする方が余程マシだ。

だいたい、隣近所の住人もなにを考えているのだから。

こんなボロアパートの一室で、毎日毎日、母親の罵声が轟いているのだ。この部屋で何が起きているかは、知らないはずがない。それに、あまりにも痩せっぽっちで、顔や腕や足に沢山の痣をこしらえてるこの子の身体を見て、何とも思わないなどという事があるだろうか。

私が幽霊でさえなければ、とつくに然るべき機関に電話の一本も入れてるに違いない。

もともと、生前の私が同棲相手に殴られていても罵声を浴びせられていても、知らん顔をした連中だ。おかげで、思いあまった私が同棲相手を包丁で刺し殺して、そのまま自分も自殺したあの時も、結局死後二週間も放置されてしまった。

真夏で、すぐに傷みはじめた死体が発する臭気にも無頓着だった連中に、そんなマトモな行動は期待するだけ無駄なのかもしれない。

——もう、いっその事、この馬鹿女に取り憑いてやろうかしら。それで外にでて騒ぎを起こしてやるというのはどうだろう。

——そうしたら、この子の事にも誰かが気づいてくれるかもしれない。
—— 良い手だわ。……でも、簡単に取り憑ける物なのかしらね。ま、やってみましょうか。

私は、娘の髪の毛を引っ張って、更なる折檻を加えようとしている女の背後から、その身体の中にそっと進入してみた。

—— あら、以外に簡単だったわね。

女の身体がビクリと震えて、娘の髪の毛から手を離す。

「……おかあさん？」

あんなに酷い扱いをされていた直後だというのに、この子は突然の母親の異変に対し、心配げな声で呼びかけてくる。

私はその声を聞きながら、沸々と沸き起こる怒りの感情を胸に、女の抵抗を封じ込めるために必死に戦った。

—— まったく！この馬鹿女から、どこをどうしたら、こんな良い子が生まれるのかしらね！

そんな事を思った直後だ。持てる力の全てを使って女の抵抗を払いのけた瞬間、私は、なんと女の魂を身体から追い出してしまっていた。

「あれ……？」

思わず呟いた声は、馬鹿女の声だった。

—— あら嫌だ。もしかしくなくても、身体を乗っ取っちゃった？
困惑しながらも、久しぶりに感じる身体の重さが妙に新鮮で、私は手を握ったり開いたり、満面の笑みを浮かべてみたりと、生きた

身体の感触を存分に楽しんだ。

「おかあさん……どうしたの……？」

その困惑気な声にハッと我に返った私は、慌てて奇行を取りやめて、心の底から心配してくれてるらしい娘に向き直る。

―― 予定変更。

私は、娘を抱きしめた。

突然の事に強ばる小さな身体から力が抜けるまで、強すぎず弱すぎずの適度な力で、小さな身体の温もりを全身で味わう。そして、言った。

「ごめんね、悪いお母さんだったよね」

「……………」

細い腕が首に回され、強い力でギュッと抱きついてきた。

そして、母親に殴られても泣かなかった子が、今は私の身体にしがみついて泣いている。

―― さて、まずは引越しね。

私は『愛娘』を抱きしめたまま、部屋の片隅から未だ訳も解らず、私たち親子の抱擁を無然とした表情で見つめてくるだけの女に微笑み返し、そんなことを考えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5227p/>

地縛霊

2010年12月16日02時54分発行